

甲 第 号

近藤 裕美子 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	大林 千穂
論文審査担当者	委員	教授	浅田 秀夫
	委員(指導教員)	病院教授	朴木 寛弥

### 主論文

Endosialin/CD248 may be a potential therapeutic target to prevent the invasion and metastasis in osteosarcoma

エンドシアリン/CD248 は骨肉腫の浸潤と転移を抑制する潜在的な治療標的となる可能性がある

Yumiko Kondo, Kanya Honoki, Shingo Kishi, Shiori Mori, Rina Fujiwara-Tani,

Shinji Tsukamoto, Hiromasa Fujii, Hiroki Kuniyasu, Yasuhito Tanaka

Oncology Letters

2022 Feb; 23(2): 42.

## 論文審査の要旨

Endosialin/CD248 は膜貫通型受容体であり、活性化された間葉系細胞、肉腫の幹細胞に高発現する。本研究では骨肉腫におけるその発現と治療標的としての可能性について抗 endosialin 抗体 (MORAb-004/Ontuxizumab) を用いて検討した。骨肉腫臨床検体においては転移例において endosialin の高発現を認め、予後マーカーとしての意義が示された。また抗体処理によっても細胞増殖、幹細胞能、分化能には影響しないものの、fibronectin 存在下において腫瘍細胞の運動性を低下させ、浸潤と転移病巣の発生を抑制することが示された。

公聴会においては CD248 の発現についての質疑があり、転移群が非転移群より腫瘍細胞の陽性割合が高く、予後マーカーである可能性が述べられた。また fibronectin と CD248 の結合により生じる変化の分子レベルでの解釈について、微少環境変化に関する幾つかの適切な考察があった。さらに、今後、病期や対象を抗体治療薬の使用についての可能性が述べられた。

これらの研究成果は、今後の臨床応用が期待され、臨床医学の発展に寄与するものと評価できる。

## 参 考 論 文

1. Comparison of Patient Satisfaction between Brachial Plexus Block (Axillary Approach) and General.  
Matsumura N, Inoue S, Iwagami H, Kondo Y, Inoue K, Tanaka Y, Okuda A.  
Open Journal of Anesthesiology. 2020 December 10;10(12):422-434.
2. Miscorrelation of Functional Outcome and Sociooccupational Status of Childhood, Adolescent, and Young Adult Generation with Bone and Soft Tissue Sarcoma Patients.  
Fujii H, Honoki K, Ishihara T, Shinomiya T, Tsukamoto S, Kido A, Kondoh Y, Kishi S, Shima M, Tanaka Y.  
J Pediatr Hematol Oncol 2019 Mar;41(2):112-117.
3. 大腿骨頸部骨折術後に発症した奇異性脳塞栓の1例  
近藤 裕美子, 藤井 宏真, 大達 清美, 福井 直人, 荻田 恭也, 田中 康仁  
中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56 巻 5 号 Page1187-1188(2013.9)
4. Effect of mesenchymal stem cells on hypoxia-induced desensitization of  $\beta$ 2-adrenergic receptors in rat osteosarcoma cells.  
Kido A, Yoshitani K, Shimizu T, Akahane M, Fujii H, Tsukamoto S, Kondo Y, Honoki K, Imano M, Tanaka Y.  
Oncol Lett 2012 Oct;4(4):745-750.

5. 肉腫様肝内胆管癌と肉腫様肝細胞癌の2症例

近藤 裕美子, 高野 将人, 森田 剛平, 武田 麻衣子, 榎本 泰典,

笠井 孝彦, 中峯 寛和, 野々村 昭孝

奈良医学雑誌 59 卷 5 号 Page175-181(2008.10)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに運動器再建医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年3月8日

学位審査委員長

病理診断学

教授 大林 千穂

学位審査委員

皮膚病態医学

教授 浅田 秀夫

学位審査委員(指導教員)

運動器再建医学

病院教授 朴木 寛弥